**説教20230212　2コリ1：18-22マルコ2：1-12「イエス　orノ－」**

**今日の説教題「イエス　orノ－」は有名なマタイ福音書５章３７節の**

**「あなたがたは、『然り、然り』『否、否』と言いなさい。」**

**というイエス様の御言葉から出ています。この節の英語訳が、All you need to say is simply ‘Yes’ or ‘No’.となってまして、実にこのほうがシンプルに言い表されています。イエス様は私たちが、日々の生活において判断をするときに、その都度、謙虚に御心に聴いて、イエスと言うべき時はイエスと言い、ノーと言うべき時にはノーと言いなさいと、私たちに勧められているのです。**

**私たちの生活は、判断を迫られることの連続であります。小さな事では、今日はサンダルを履いていくべきか靴を履いていくべきか、や、パンを食べようか、お米を食べようかと言ったことです。又、大きなことでは、今日は会社に行こうか行くまいか、ですとか、祈祷会に行こうか行くまいかといった判断であります。**

**こういった判断をすべき時に、共に歩むイエス様の御心に静かに聴いて、‘Yes’ or ‘No’を表明するというのが、クリスチャンの歩みであります。**

**しかし、人間と言うのは罪深い存在ですから、一事が万事、御心に適った正しい判断が出来るわけではありません。時には、御心に聴いたつもりが、とんでもない間違いを犯してしまうことも避けられません。先週の説教でも取り上げましたが、ペテロはイエス様に対して「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません」と言って、とんでもないノーを突き付けましたが、そのことによって、イエス様はペトロを見限ったりはせず、ペトロに「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている」という戒めの御言葉をお与えになって、彼のことをお許しになったのです。**

**この様に、「イエス　orノ－」と言うのは、私たちが日々の生活を、イエス様と共に送るうえで非常に実践的なイエス様からの御言葉なのです。**

**又、実際の生活では、イエスともノーとも判断しがたいという事柄にも直面することでしょう。そんな時には、私たちは口を閉ざして、神の御前に静まり、御心が聞かれるのを待ちなさい、ということもイエス様は言われています。**

**牧師の生活と言うのは、具体的なスケジュールと言うのはスカスカで、手帳にもほとんど約束の日時の書き込みはないのですが、かといって、「イエス　orノ－」の判断をする機会が少ないかと言えば、そうではありません。そして判断を迫られる状況が、矢のように突然迫って来る時もあります。**

**先日、突然、トヨドメさんから電話頂きまして、「あのー、かつてそちらの教会の牧師さんでトヨドメという方はおられませんでしたか」と言われるので、手元にあった百年史をひもときますと、なんとトヨドメさんとは当教会の初代牧師でありました。先方は縁者に当たります豊留秀信牧師のことをいろいろと調べておられるようなので、取り急ぎ、当教会の百年史に記されている情報を電話でお伝えした上、その百年史を福岡の御自宅にお送りしたのです。そうすると向こうから逆に豊留牧師の写真や資料を教会にお送りくださって、今回の百年史の増補記事が書けたのでした。**

**そうして、2011年から12年経った今、教会１１２周年記念事業として、この記事をゆかりのある諸教会や個人にお送りすれば良いのではないかと思い立ち、手分けをして、今この記事をあちこちにお送りしているところであります。**

**私は、今回、教会の２階に保存されている、各地にある教会から贈られてきた、教会記念誌を読んでみました。そうすると、それぞれの教会が深い信仰心と愛情に基づいてこれらの記念誌を編纂し、当教会にも寄贈して下さったのだなあということが分かりました。『別府不老町教会創立百周年記念誌神の愛に支えられて』も再読してみました。戦前の記事について、編集長の吉良頌三兄は次の様に記しています。「この機会を逃すと今後掘り起こしは困難と考え、大まかな資料からやむなく推測判断したが、将来良き資料が見つかれば加除訂正は可である。」この吉良兄の思いに、今回、主が応えられて、初代　豊留秀信牧師の記事と御写真を追加させて下さったのだと思います。**

**この例にみられるように、私たちの「イエス　orノ－」が御心に適ってうまく連鎖をする場合もあれば、同じくらいの数、うまくいかず失敗する事例もあります。**

**先日、突然、教会に、ある青年から電話がかかってきました。彼が話したことを紹介しますと、私は北海道で生まれ、両親が無教会のキリスト者で、父は市会議員をしていましたが、落選を機に、家族が困窮し、自分は苦学して、大分大学教育学部を卒業し、長野県で就職しました。それからいろいろあって今は東北地方で暮らしています。躁うつ病を患っており、離職していて、後、１ッ週間で電気ガスなどのライフラインを全て止められてしまいます。役所にも相談しましたが取り合ってくれません。つきましては３万円お送り下さいませんか。と言う内容でした。これを聴いた私は、顔と顔とを合わせていない相手に、送金するのも気が引けたので、「近所の牧師に相談して下さい」と言ってノーと言ったのでしたが。あとは、彼に主の救いの御手が差し伸べられるのを祈るばかりです。**

**さて、このように「イエス　orノ－」の判断の連続によって続けられる、私たちの生活でありますが、今日の第二コリント書の箇所では、それとは反対の生活態度が強調して記されています。それは、「然り」であると同時に「否」であるということです。これも英語で表現しますと、イエスandノー、となりまして実にシンプルであります。それで、パウロはこの、然りであると同時に「否」であること、イエスandノーであることに対して、どう考えているかと言いますと、それはダメ、絶対にノーであるという考えなのです。このこともまことに現実的な問題をはらんでいて、例えば、国会議員の候補者が、当選する為の方便として、心とは裏腹の公約をイエスと言って掲げて当選したのちに、たちまちに前言を翻してノーと言い始めると言った事例があります。又、個人の生活レベルでは、イエスともノーともつかない曖昧な生活態度を続けることで、相手をうまくコントロールしていくといった事例も今日の世の中で多く見られます。**

**パウロは言います。神の子イエス・キリストは、「然り」と同時に「否」となったような方ではありません。この方においては「然り」だけが実現したのです。と**

**パウロはここで、主イエスにおいてはイエスandノーという生活態度は絶対にあり得ないことだと言っているのです。**

**パウロが、イエスandノーという生活態度を強く否定しているのは、実は、彼自身が、人間的な考え方に取り巻かれ、イエスandノーという生活態度をパウロ自身がしてしまっているではないかと、多くの人たちから責められていたからでした。**

**パウロたちは、前には、先ずコリントに住むあなた方の処へ行きますよと、公言していました。しかし、事情が変わって、すぐにコリントに行くというその計画を変更せざるを得なくなったようです。そういった経緯から、コリントの人たちは「すぐに来てくれるのではなかったのですか」とパウロを責めたので、それに対してパウロは弁明を展開しているのです。パウロは言います。**

**あなたがたに向けたわたしたちの言葉は、神の子イエスの言葉を伝えているのだから、「然り」であると同時に「否」であるというものではありえない、と。**

**パウロとて人間ですから、必ず、この様に、イエスandノーの世界に巻き込まれ、或いは彼自身も、イエスandノーという答弁をしてしまうということも、この地上生涯においてあったのではないでしょうか。**

**但し、主イエスに固く結びつけられているパウロは直ぐに、イエスandノーという生活態度を悔い改めて、イエスorノーの生活態度へと向きなおったことでしょう。**

**私たちが神をたたえ、その都度「アーメン。」といっているのは、御言葉に対して、イエスであるという態度を表明しているのです。このように、主に対してイエスと言い、主に反することにノーという生活を続けることによって、益々、私たちは主イエスと固く結ばれるようになります。そして、主はわたしたちに証印を押して、保証としてわたしたちの心に“霊”を与えて下さったのです。**

**この、主はわたしたちに証印を押して、という表現は、これだけでは分かりにくいですが、これは、主なる神が、目に見える形を私たち一人ひとりに与えて下さったということです。より具体的に言えば、それは私たち一人ひとりに洗礼を授けて下さったということであります。そうして洗礼を受ければ、私たちには聖霊が与えられます。ペトロが使徒言行録２章で次の様に言っている通りです。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」**

**今日のマルコ福音書箇所で、主イエスは、２つの御言葉を人々に投げかけられました。一つ目は、「子よ、あなたの罪は赦される」で、二つ目は「わたしはあなたに言う。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい。」でありました。**

**「子よ、あなたの罪は赦される」と言う御言葉に対し、イエスを信じる者はイエスと言い、信じない者はノーと言いました。そして次に「わたしはあなたに言う。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい。」と言われて、起き上がって歩き出したこの人を見て、この度は、信じる者も又信じない者も、この御言葉に対しイエスと言わざるを得なかったでしょう。**

**私たちがこの地上で味わう最上の幸せは、主イエスによって罪が赦されることであります。そして、主イエスは、その目に見える形として、洗礼と言う証印を、信仰する者の一人ひとりに授けて下さいました。私たちが日々の生活で、主イエスに対してイエスと言い続けることは、十字架の死と復活に至る、永遠の祝福の命の道であります。私たちは主イエスをかたく信じて、恐れることなくその道を、この身で証しながら前へ進めて参りたいと願います。**

**祈り**

**父なる神**

**今、トルコ、シリアで起った大地震によって、そこに住む方々が苦しみ悲しんでいます。どうか、あなたの救いの御手によって、彼ら彼女らを癒し慰めお救い下さい。今、救助に入っている方々をもあなたの御手の内に守り、良き働きが出来ますよう励まし導いて下さい。又、私たちも、あなたの御心によって、正しく判断をし、あなたの救いの御業の連なりの内に関わっていくことが出来るようにして下さい。**

**あなたは常に救いの御手を差し伸べるときを見計らい、必要な時に救いの御手を私たちに差し伸べて下さいます。どうか、私たちがいつもあなたの救いの御手を待望みつつ、小さな事に眼差しを向け、小さな出来事の連なりの内に、あなたの祝福を見出して、あなたの光のほうに歩んで行く営みを続けさせてください。**

**別府不老町教会創立112周年を覚えます。この112年の間この地にて、この教会を養い守り続け、祝福し続けて下さいました主に、感謝と賛美を捧げます。どうか教会の体の枝である私たちを、活かし、働かせて、次の世代の教会の御栄の為に豊かに用いて下さいますように。一つの会堂は、礼拝が捧げられている全てのキリスト教会の会堂につながり、世界の教会はあなたによって一つにされようとしています。どうか私たちがその御業の完成の為に、心を尽くして励んでいくことが出来ますよう守り導いて下さい。**